

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320059

研究課題名（和文） 14 - 16世紀イギリスの写本、印刷本を対象とした  
デジタル書物的研究研究課題名（英文） Digital bibliographical research on the MSS and printed books  
produced in England, c. 1300 -1600

研究代表者

松田 隆美（MATSUDA TAKAMI）

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：50190476

研究成果の概要（和文）：

14 - 16世紀のイングランドで制作された写本および初期刊本を対象として、特に書物がかつパラテキスト要素（挿絵やページレイアウト）に注目しつつ、デジタル書物的手法をもちいた比較研究をおこない、テキストとパラテキストの相互補完性を具体的に明らかにした。また、書物への書き込みなどのパラテキスト要素に注目しつつ、体系的な書誌調査を初期刊本についておこない、さらに、XMLによるデジタル・エディションや自動画像認識などの書物史研究のためのデジタル・ツールの充実を図った。

研究成果の概要（英文）：

Comparative studies have been conducted on the MSS and printed books produced in England c. 1300-1600 using digital bibliographical methods, focusing especially on paratextual elements (illustrations, mise-en-page, etc). The research has clarified the interplay of texts and paratexts in these books. A systematic bibliographical survey on some of the early printed books has also been done while an improvement has been made on such digital tools as XML digital edition and automatic image recognition system.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	5,200,000	1,560,000	6,760,000
2010年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
2011年度	4,300,000	1,290,000	5,590,000
年度			
年度			
総計	13,800,000	4,140,000	17,940,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：中世イギリス文学、書物文化史、XML、キャクストン、時禱書、書誌学

## 1. 研究開始当初の背景

デジタル化およびデジタル情報処理の手法の書誌学やテキスト研究への応用は、西洋書誌学・書物史における最新傾向の1つであり、欧米でもそうした成果が刊行されつつある。The Canterbury Tales on CD-ROM Project や International Emblem Society の

オンラインコンテンツはそうしたプロジェクトの好例で、近年には研究例をまとめた論文集 *Electronic Textual Editing* (2006) がアメリカの近代語協会 (MLA) から発刊されるにいたり、デジタル化とデジタル情報処理の手法の文学研究への応用はますます注目されるようになった。

しかし、実際に公開されているコンテンツは、デジタルファクシミリと基本的なマークアップを施した電子テキストを組み合わせたものが大半で、研究の素材となる一次資料の提供のレベルにとどまっている。それらを利用した具体的な研究の展開、さらにデジタル情報処理の応用研究としての新たな方法論の成熟はこれからの課題である。

研究代表者および分担者は、これまで単独あるいは共同で、14 - 16世紀の書物を対象としてデジタル情報化の手法の研究や書誌学・書物史的研究を発表してきた。特に、平成20年度まで慶應義塾大学デジタルアーカイブ・リサーチセンター・プロジェクトに参加することで、デジタルファクシミリを一次資料として用い、XML(eXtensible Markup Language)でマークアップを施したテキストを作成してウェブ公開したり、イギリスに印刷術を導入したキャクストンの初期の出版物を取りあげ、キャクストン活字を分析するための、新たなデジタル画像解析ソフトウェアの開発にも取り組んできた。

このように、研究素材のデジタルコンテンツ化や研究ツールの開発に関わってきたことで、単に研究の素材となる高精細デジタルファクシミリ、電子テキスト、データベースを制作だけで終わらせず、この時代の書物史研究に実践的に応用して成果を挙げ、これまで個別の書物を対象に進めてきたデジタル化の手法を、より汎用的なデジタル書物学的方法論として確定する必要と意義を強く認識した。

## 2. 研究の目的

デジタル書物学的方法論の確立、方法論の統合による新たなデジタル・コンテンツの制作、デジタル書物学的方法論を用いた書物文化史研究の3つの側面に関して、以下のような成果を挙げることを目的とする。

(1) デジタル書物学的方法論の確立 これまでに特定の書物を対象として開発してきた、XMLによるオンライン校訂版とデジタル画像解析について、さらなる改良と応用を重ねて、汎用性の高い研究法として確立させる。XMLによるオンライン校訂版に関しては、複雑なレイアウトや略字を有するラテン語時禱書を対象とすることで応用性を高め、その制作過程を確定する。デジタル画像解析については、活字認識ソフトの認識率の向上、ならびに解析ツールのさらなる開発を進め、分析書誌学のデジタルツールとして完成させる。

(2) XMLによるオンライン校訂版とデジタル画像解析の成果を統合した、デジタルコンテンツの制作 - XMLによるテキストのマークアップは、個々の研究者が、独自の興味を反映したマークアップをテキストに施し、

研究用途に特化してカスタマイズされたテキストを作り出すことを可能とする。それは、安定したテキストの確定を目的とする伝統的な校訂版の概念とは異なり、研究者自身の視点、あるいは研究者を通じて解析された当時の一読者の視点を反映したテキストを生成することに他ならない。また、デジタル画像解析のソフトは、画像認識による全文解析を短時間で正確に実現するだけでなく、使用されている文字情報を活字レベルで分類、データベース化することを可能にする。このソフトが生成するデータを用いることで、26文字のアルファベットだけでなく、同一文字の異なる形状の活字の差異までも識別が可能となる。このような活字レベルでの情報を含んだテキストは、実際に書物の製作に関わった印行者や植字工の視点を情報として内包したものとなる。この2つのデジタル化の手法は、同じ書物にかかわった様々な人間の視点を反映している点で共通しているが、それらを統合し、作者、植字工、読者それぞれの視点から見たテキストを階層化したウェブコンテンツをXMLのマークアップによって実現する。

(3) デジタル書物学的方法論による書物文化史的研究 - 本研究が対象とする14 - 16世紀は書物生産の手段が写本から印刷本へと推移する時代だが、研究対象とする『羊飼いの暦』やキャクストン版『カンタベリー物語』などは、複数の写本や刊本で現存している、当時を代表するポピュラーな書物である。デジタル校合、画像分析、XMLによるマークアップは、版毎の比較を、活字の違いからテキスト間の異同、出版形態の違いに至るまで、正確かつ効率よく行うために有効なツールである。こうしたツールを用いてデジタル書物学的に各版の異同を記録、分析することで、読者層が増大し、また宗教改革によって思想的基盤が変動したイギリスの14 - 16世紀における、ポピュラーな書物の受容と変容の過程を、書物の内容、文化的文脈、形態に注目して具体的に明らかにする。さらに、デジタル書物学的方法論を、中世後期から近代初期におけるイギリス文学研究に応用して、具体的な成果をあげる。

## 3. 研究の方法

書物を構成する情報を、テキスト情報(テキスト本文およびそれに基づいた校訂版)、パラテキスト情報(活字、書体の異同、文字装飾、ページレイアウト、挿絵)、コンテキスト(文脈)情報(所有者による書き込み、他の版との異同、解説的注釈)の3種類と認識し、『羊飼いの暦』とキャクストン版『カンタベリー物語』を主たる対象として、高精細デジタルファクシミリを用いて以下の方

法で研究を進める。

開発中のデジタル画像解析ソフトウェアを用いて、画像認識によるテキスト解析と活字データのインベントリ作成を実施して、テキスト情報を取得する。この解析作業を通じて、同時にソフトウェアの改良を進め、この方法論の汎用性を高める。転写したテキストをパラテキスト情報を中心に XML でマークアップし、挿絵にはその画像を同定して Iconclass のアノテーションを付し、ウェブブラウザで閲覧可能な校訂版を作成する。この過程を通じて XML によるマークアップとウェブ化のプロセスをマニュアル化し、また関連する一次資料にもマークアップを施すことで、XML によるオンライン校訂版の研究法としての汎用性を高める。

こうして制作された活字のインベントリや XML でマークアップしたテキストを活用して、他の版との異同や内容的特徴を分析する。これらの成果は、個別に論文として発表するとともに、書物を取り巻くコンテキスト情報として、ひとつのデジタルコンテンツ作者、読者、植字工、研究者など、書物に関わる人間の複数の視点を内包した「デジタル書物」に統合されて、デジタルファクシミリとともに閲覧可能とする。方法論の改良および書誌学・書物史研究の結果がひとつの「デジタル書物」とでも呼ぶべきコンテンツに統合されることで、そのコンテンツは、それ自体研究成果であると同時に、さらなる書物文化史研究の素材として機能することとなる。

#### 4. 研究成果

15 - 16 世紀にフランス語と英語で複数の版が刊行された挿絵入りの教訓書、『羊飼いの暦』の英語版 (London, 1556) とフランス語版 (Paris, 1497) - 慶應義塾図書館蔵 - を主たる対象として、そのデジタル・エディションを充実させるとともに、同時期に刊行された時祷書刊本との比較研究を、その形態的特徴と内容比較の両面において進めた。両者の内容には、暦部分を中心に共通点が多く、さらにおよび一部の祈禱文、カテキズムなどが、刊本によっては共通している。さらに、書物のパラテキストをめぐっては、『羊飼いの暦』、15 世紀末～16 世紀前半にパリおよびルーアンで印行された時祷書などの初期刊本に、さらに 15 世紀末に北フランスで制作された写本の時祷書も加えて比較研究をおこない、特に、ページレイアウトと欄外装飾の形態に関して共通性が存在することを明らかにした。『羊飼いの暦』と時祷書の 2 つのジャンルの書物には、内容とパラテキストの両面で具体的な共通点と影響関係が存在し、キリスト教の基本教理や実践的知恵を相

互補的に提供する、緊密な関係性のもとに受容されていたことを論じた。

慶應義塾図書館が所蔵する西洋神話学に関する初期刊本を対象として、近代初期にヨーロッパで刊行されたギリシャ・ローマ神話学関連図書約 100 点について詳細な書誌記述と所有者による書き込みの調査をおこない、中世末期から 17 世紀にかけてのギリシャ・ローマ神話学の受容を書物史的視点から具体的に跡づけることができた。書誌を作成するとともに成果を論文にまとめた。また、コレクションの一部を慶應義塾図書館の協力の下で展示、解説することで、成果を広く公開するとともに、慶應義塾図書館が所蔵する西洋貴重書のオンライン・データベースの発展構築に向けて協力した。

14 - 16 世紀のポピュラーな書物 特に工房生産の時?書、写字生が挿絵も担当した英語の宗教文学写本、印刷本の時祷書や『羊飼いの暦』などの挿絵入り初期刊本の同時代的受容について、テキスト本文と挿絵の相互補完性、パラテキストとテキストの関係性、写本のコンテキストがテキスト解釈に与える影響を中心にまとめ、単行本として刊行した。特に挿絵が平信徒の読者によっていかに「読まれた」かを具体的に分析することで、中世後期から近代初期のイギリスおよびフランスにおける書物のポピュラリティを読者層との関係で論じた。

16 世紀に刊行された「セイラム式」時祷書に関して、デジタル・エディションを作成し、ウェブブラウザでの閲覧を可能にした。15 世紀末から 16 世紀中期にかけて刊行された印刷本の時祷書の学術的校訂版は未だ存在していない現状を考慮すると、XML によってタグ付けをした 2 種類のトランスクリプション (diplomatic と略字展開版) で構成されるこのエディションの作成は有意義である。15 世紀イングランドの宗教文学写本 (大英図書館蔵 Additional 37049 写本) のテキスト本文と挿絵の相互補完性に関して、挿絵の機能を分類して分析する論文を発表した。

キャクストン版『カンタベリー物語』初版のデジタル画像をもとにして生成した、自動画像認識の誤認識結果の検討と修正を行い、認識結果の改善をはかった。また XML によるウェブコンテンツ制作に関する最新の動向に基づき、活字の形状レベルの差異も含んだテキスト情報、パラテキスト情報のタグ付けの検討を行い、初期刊本の XML エディションの構築の基礎を構築した。

パラテキストの要素のひとつとして、初期刊本の手書き文字に注目し、体系的な書誌学的調査を行った。イギリス初期刊本のなかで最も現存数の最も多いキャクストン版『ポリ

クロニコン』を具体例として取り上げ、約25点の現存本を調査した。各図書館で取得したデジタル画像をもとに、手書き頭文字の種類分類や読書に与える影響、他のパラテキストの要素（製本など）や来歴との関係などについて考察を深め、研究の成果の一部を国際学会で発表し、こうしたパラテキスト的要素を、貴重書のオンラインカタログやXMLエディションに反映させる意義を示した。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計10件)

Satoko Tokunaga, 'Printing and Reading Walter Hilton in Early Tudor England', in *Texts and Contexts of Medieval Anchoritism*, ed. by Catherine Innes-Parker and Naoe Kukita Yoshikawa (Cardiff: University of Wales, [2012]) 査読無

松田隆美「トロープからナラティブへ - 西洋中世におけるアレゴリーの展開 - 」竹下政孝・山内志朗編『イスラーム哲学とキリスト教中世 実践哲学』（岩波書店, 2012）pp. 209-240 査読無

Satoko Tokunaga, 'A Textual Analysis of the Overlooked Tales in de Worde's *Canterbury Tales*', in *Scribes, Printers, and the Accidentals of their Texts*, ed. by Jacob Thaisen and Hanna Rutkowska (Frankfurt am Main: Peter Lang, 2011), pp. 157-76 査読無

松田隆美「テキストを見るディヴォーション - BL MS Additional 37049 におけるイメージの機能」『西洋中世研究』3(2011), 86-106 査読有

徳永聡子（書評）Valerie Hotchkiss and Fred C. Robinson, *English in Print from Caxton to Shakespeare to Milton* (Urbana and Chicago: University of Illinois Press, 2008) 『英文學研究』87(2011), 122-25 査読有

松田隆美、徳永聡子、他「『D.S. Brewer 旧蔵神話学コレクション展』解題目録」『慶應義塾大学日吉紀要 英語英米文学』56(2010), 27-47 査読無

松田隆美「中世の煉獄のヴィジョンとそのゆらぎ」『創文』527(2010), 41-44 査読無

松田隆美「Derek Brewer 旧蔵「神話学」コレクション」佐藤道生編『名だたる蔵書家、隠れた蔵書家』（慶應義塾大学出版会, 2010）, pp. 65-85 査読無

松田隆美「15世紀後半にルーアンで制作された時禱書（慶應義塾図書館蔵）の書物史的研究」佐藤道生編『慶應義塾図書館の蔵書』（2009）, pp. 157-71 査読無

徳永聡子「修道女と書物—サイオン修道院の書き込み本について」『西洋中世研究』1(2009) 141-55 査読有

〔学会発表〕(計2件)

Satoko Tokunaga, 'Making a Book Perfect: Rubrications in Caxton's Books', Early Book Society, 2011年7月4日. University of York

Takami Matsuda, "The Kalender of Shepherdes and the Printed Books of Hours" The Cardiff Conference on the Theory and Practice of Translation in the Middle Ages 2010年7月26日 Universita degli Studi di Padova

〔図書〕(計2件)

河内恵子、松田隆美編『ロンドン物語 - メトロポリスを巡るイギリス文学の700年』（慶應義塾大学出版会, 2011）, pp. 236

松田隆美『ヴィジュアル・リーディング 西洋中世におけるテキストとパラテキスト』（ありな書房, 2010）, pp. 254

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.flet.keio.ac.jp/~matsuda/ks/>

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

松田 隆美 (MATSUDA TAKAMI)

慶應義塾大学・文学部・教授

研究者番号：50190476

(2) 研究分担者

徳永 聡子 (TOKUNAGA SATOKO)

慶應義塾大学・文学部・助教

研究者番号：60453536

(3)連携研究者

榎村 雅章 (KASHIMURA MASA AKI )  
慶應義塾大学・文学部・講師 (非常勤)  
研究者番号 : 00338211

小沢 慎治 (OZAWA SHINJI )  
愛知工科大学・工学部・教授  
研究者番号 : 70051761

高宮 利行 (TAKAMIYA TOSHIYUKI )  
慶應義塾大学・文学部・教授  
研究者番号 : 90051804